夕刊 磐城新聞
九月十日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾錢（郵稅拾五錢）
廣告料金 普通欄 金六拾錢 特別欄 金九拾錢 五號十二字詰一行一回（場所指定一行増）
編輯印刷兼發行人 鈴木 發行所 磐城新聞合資會社 平町十六番地
登錄受付電略（タイライワキ） 電話五六四番
〔日曜祭日翌日休刊〕
東京振替一〇八〇五六五番

天氣豫報
小名濱測候所發表

今晩も明日も北東の風小雨

秋＝酒仙語れる
○△生

一

暑熱を消し飛ばして五臓六腑へ泌み渡る様な冷いビールも最初の一杯こそ生命で、其れからは切つたから仕方無し飲むやうなものの後から後からブッカキを入れてガブ〳〵やるのは飲み手も些か邪道に墮ちたかたち。同じグリル バッカスへ行つてもあれが傍に宋美齡の様な酌ぎ手が居なかつたり、上海だ青島だと方角も判らずに饒舌り散らす相手の男でもなかつたなら、どうしてあんなものを何本も何本も飲める筈のものではない——が其所へ行くと我等の日本酒こそ而も今日此頃の様に雨が降つてこほろぎが啼いて黍の葉がカサコソとなつて天地いとゞ蕭條たる頃ともなれば其の味に一層の甘美を增して來る。

そこでウェルズ氏の世界文化史に據ると『紀元前一萬年前から一萬二千年の間に人類は醱酵と云ふことを發見しここにアルコール性飲料を釀造し出し、醉つぱらつたり、上機嫌になつたりし出し、酒宴と云ふものが起りそれから彈唱詩人、史詩吟誦家や歌物語りを唱ふ樣な人が生じた云々。との事だ。して見ると酒は文學の源泉だと云へる譯だ。酒音『シュ』詩は『シ』、そこに大に通じた點が存在するではないか

酒に關する文獻を好む自分は曾て酒の歷史と云ふ本を見た事があつたが、その中に『ローマ?では婦人に酒を飲ますことを禁じてゐた。そこで一家の主人が外から家に歸つて來ると、家の婦に口づけをして禁を犯したかどうかを見た』と書いてあつた。それから察すると詩や文の源泉が酒であつた許りでなく、キッスなる微妙な行動迄が酒から創始された事になるわけだ

十八史略には『儀狄酒を作る、禹飲みて之を甘しとし、曰く後世必ず酒を以て國を亡ぼす者あらんと。遂に儀狄を疏んず』とある

儀狄が酒を作る前迄は醴酪と云つて醉はぬ甘酒があつたのだから、聖君の禹も鱈腹飲んで居たに相違ないが儀狄が心地良く醉ふ本ものの酒を作つた。遂々九月一日にも酒無しにはどうにも遣り切れなくなつた。其所でこいつはいけないと感づいて儀狄を疎んずと云ふ結果になつたのだ

灘の濱邊
恩地淳一

灘の濱邊の
ひるさがり
晝顔のはな
咲いてナる

むしろ擴げて
雜魚ほせば
むれて鷗が
おりてくる

釣をする子も
釣れぬのか
角力はじめる
灘の濱

9月11日

△空也上人寂（元祿三）△西郷、有村等鹿兒島に遁るる（安政五）△平田篤胤歿（天保一四）△登記法及証人規則を公布す（明治一九）△井上飯花坊歿（昭和九）

將介石
珠寰 小野務平

當年蹶起捲黯沙
今日矜功驕且奢
排擊隣邦無狀甚
不知早晩滅中華

三人三日會（九月三日長生庵にて）
『虫』『秋の雲』（上）
佐分利晃

秋の雲枯れたる杉の頂きに
コーロギの鳴く音沈しや夜の更けて
虫の音の身に泌む宵や秋涼し

講談 妖刀流轉（えうとうるてん）(189)
邑井貞吉演 佐々木今朝吉畫

因果の妖刀（四）

覺と見せて油斷させて居たのは全く傳五郎の胡麗化しで、其實は腰ぬけでも何でもない、白刃を揮つて熊吉に斬つけられ吐嗟の場合に身を以て蒲鉾小屋を脱け出した傳五郎が飛鳥の如くに彼方の亂塔場へ躍り込み雜然と立並んで居る石塔の中、一番奥まつた處にある大ぶりな無縁の塚を、力に任せて押倒すと、石碑の下がボッコリと穴になつて居りまして、深い木箱が埋めてある、蓋を拂ふとその中には、無造作に突込んである黑裝束、いふ迄もなく傳五郎が此處へ隱して置いたもので、毎夜これを着ては來る

市中へ出で、諸方を荒して居たので御座います

この黑裝束や諸方から奪つて來た金品が、皆この留の中へ隱してある、その中に押込んであるのが傳五郎の刀で、手早くこれを取出すと鞘を拂ひ、石碑を飛び越えて躍り出した大島が、後を追つて來た熊吉をハッタと睨み

傳『片腹痛い敵呼ばはり今こそ汝が望みに任せ、如何にも對手に成つて遣はす、返り討ちだ覺悟をしろ』

大上段に振かぶり、無二無三に斬つてかゝる、それでなくても熊吉の方が危ないところを、先方の腰が立つて兇器を持つたと來ては到底敵ひません

氣ばかり焦つても向疵の熊吉、最前からの疲れは有り、次第々々に斬り立てられ、後へ〳〵と下つて來る處は一面の草原で、往來も途絶へた篠ヶ谷、空はいよ〳〵眞つ暗に曇つて參り今にもサット夕立が、襲來しそうな天候の具合、生ぬるい風が氣持わるく吹いて

ツルリと辷つた熊吉が、アッといふ間もあらばこそ、ドーンと仰向けに倒れた處をしてやつたりと傳五郎、只一太刀と拜み討ちに、斬り下したる刄の下あわれむべし熊吉は眞ッ二つにされたかと思ひきや劍道も出來ず體術は知らずとも、一生懸命必死の場合だから、熊吉が殆ど無意識にクルリと一つ横へ轉がつたそのあとへサッと斬り下した傳五郎の太刀先、狙ひが狂つて傍らの石地藏へチャリーンと斬りつけたから堪らない、傳五郎の刀は鍔元から、物の美事にポキリと折れた

ハッと驚いたその隙に、倒れながら熊吉が、半ば夢中で力一杯、横に拂つた魔劍の切尖、まぐれ當りで傳五郎の左の膝下へザックリ斬り込む

不意の痛手に傳五郎アッと叫んで打倒れる、途端にはね起きた熊吉が血刀を振翳して滅茶苦茶に、傳五郎を目がけて斬りつけたが、彼奴もさるもの痛手に屈せず、ヒラリと交して空を斬らせ、手元へ後向きに體を當てたかと思ふと、熊吉ははづみを食らひ、モンドリ打つて二間ばかり向ふへ、地響き打つて投げ出されたのは、肩へかけたる巖石落し、傳五郎が捨身の柔術だ

アッといつた熊吉が、投げられる途端に手に持つた白刄を、ポーンと向ふへ放つて了ひ、失敗つたと起上り、刀を拾はうとする處へ躍りかゝつた傳五郎、突如熊吉の胸元を捻上げようとするのを、此方も死物狂ひの場合だから、五體をもがいて獅嚙みつき、兩手をかけて傳五郎の腕をかきむしりながら、犬のように食らひついた

餘りの痛さにひるむ所をはね返して熊吉が馬乘りになつたが、忽ち腕くも投倒され、それから後は兩人が組んづほぐれつ泥塗れ上になり下になり、毆る引搔く蹴る食ひつく血みどろの形相惡鬼の如く惡戰苦鬪の物凄さは、目も當てられぬばかりで有ます

或る思ひ出（下）
吉野生

祭日のあるところ、故郷の街はづれなる畠地なぞによく小屋掛けの莚圍ひの俄か造りである活動寫眞が、きまつて二三日打ち續いて屯ろする

その活動寫眞小屋の中から、遠く近く風の中なる天上の音樂のやうに洩れ泛つて聞えて來る、あの樂隊の奏する音色！それなのである

田舍廻りの活動寫眞のフイルムと云へば、概つて雨の降るような線條が交錯しゴミのやうな畫面のぼやけたものが多かつたが、フイルムを廻轉する馬鹿に騷音の高いことゝ、映寫する爲めに瓦斯燭光を燃やす臭ひとが記憶に懷かしく甦かへる

さうした少年時代に見殘して來た夢の中の多くを占めるものは、町々から村々へと、祭日のあるところハアモニカを吹き鳴らしつゝ、性に眼覺める頃の哀傷を、當てもない放浪を二三人の少年と共に續けてゐたものだ。あの頃中學の制服を身につけてゐた友は、今何處でどうしてゐるだらう

外科（內臟外科及一般外科）
X光線科、花柳病
內科、小兒科
院長 前田清美
岩手醫學士 萬波勳
（自炊ノ便アリ 病室完備）
前田醫院
田町本町 電話一二四番

豆炭、コールタール 販賣
一、品川豆炭
大袋 五貫匁入 金七十五錢也
小袋 壹貫匁入 金二十錢也
壹袋カラ配達致シマス、ドウゾ御注文下サイ。
一、コールタール一本（十五キロ入）金九十五錢
一本ヨリ配達致シマスカラ是非御試メシ下サイ。
電話三七番
平驛前 阿部石炭店

旅舘 大幸舘
私は平市出身ですから特に鄉里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄
電話下谷㊣六七七番
東京上野驛前 下谷郵便局横通角

耳鼻科 咽喉科 專門
平市南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
（入院隨意 病室完備）

男女學生夏服
高嶋屋の洋服
新柄背廣 レンコート
注文並ニ既製品
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

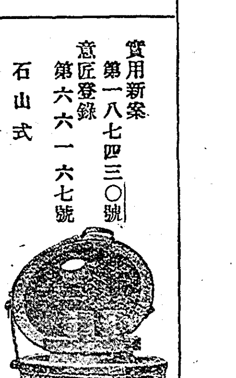
磐城の御みやげ品
名物 靈峰（みやま）羊羹 金十錢
姉妹品 柿羊羹。のり羊羹。
沼ノ內辨天羊羹。
御旅のお出入には好個のお土産品です。
小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元 小川鄉驛前 平屋賣店

吸入用酸素 純度99%
度量衡
モノサシ マス ハカリ
計量器
体温器 寒暖計
開內藥局
電話四〇番

夜間診療
胃腸病 性病
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
專門
（見習看護婦募集）
松村胃腸病性病科醫院
（平市南町電一〇七番）

外科專門
X光線科
入院隨意（自炊の便あり）
平市南町
病室完備
上田醫院
（電話一二九）

實用新案第一八七四三〇號
意匠登錄第六六一六七號
石山式
石綿ムシカマド
こんな經濟的な『かまど』は他にありません
安價な燃料で濟み、保溫力が強く堅牢で火の元絕對安全！、御使用に御便利な！石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、おすゝめ致したい新製品で御座います。



和洋銅物金物問屋
平市五丁目
㊇ 釜屋商店

產科
婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井坂醫院
平市田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

家庭用
ミシン大販賣
◉七圓月賦無料敎授無料修繕◉
◉現金特別破格大割引ス◉
◉月賦解約品格安中古品アリ◉
絕体責任保證
薄利多賣主義
平郡田町（驛前市役所側）
シンガーミシン直營賣店
◎ミシンカタログ無代進呈◎
◎販賣外務員五名採用◎

病室增築、手術室完備
產科
婦人科
醫學博士 五十嵐雄二
往診隨時
平市新川町『電話三六九番』

純菜種油製造
菜種油粕粉末肥料製造
保證成分量（本品百分中主成分量）
窒素 全量 五・二
燐酸 全量 二・四
卸小賣
力
白土屋製油所
平市一丁目
電話三六四

池ノ坊
生花教授
生花を懇切丁寧に御敎授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

全市を五方部に分ち全員委員で愼重調査
今日の市會無事終る

緊張 晝飯拔き 評定

今十日の平市會は時局柄理事者側に於ける直前の事務の幅湊で豫定より一時間遲れて十一時過ぎ開會、青沼市長より、本年度特別戶數割九萬八千二百三圓、賦課戶數五千五百四十六戶（前年より金額三千五百八十七圓戶數八十七戶增一戶當り三十七錢五厘增十七圓七十錢七厘）の査定に關し説明の後之に關聯して財政調整補給金及び應召者に對する免稅に就て二三議員より質問あり、萩原氏の動議により舊中四、舊平窪一の五方部に別ちて全員委員の外五十圓以上の納稅者百十六人（外平窪分一人）に對する分は委員の外各方部二人、平窪一人、合計九人の特別委員を加へ之によつて査定する事に決定、次で特別稅戶數割條例改正の件を讀會省略可決し次で急施議案に入り第四小學校増築の件を可決し常備消防部員給與規程改正の件に就ては支出上從來の經理方法に關し左右の追究ありたるも今後の處理に改審を加ふる事にして解決、引續き

一、納稅獎勵規定設定
一、收入役身元保證規程
一、寄附採納

の諸件を晝餐ぬきで一氣に可決し愈よ問題の助役推薦に入る

伊藤秀吉氏留保
助役は更に詮衡續行

青沼人事の全貌を物語るものとしてその人選に就き過般來各方面から多大の注意を集めてゐた助役問題は元本縣地方事務官縣庶務課稅務主任伊藤秀吉氏（五二）の推薦により一同をして意外の感を懷かしめ、直に川崎氏から

町時代にはあらかじめ各派代表と懇談したに拘らず今回は嚴秘主義で進み開會直後に至つて突如意中の人物を發表したことは吾々議員を無視した餘りにも官僚獨善主義である

馬目氏から

川崎氏の意見同樣未知數の人物をけふ決定するのは不可能のことである、十四日の本會議迄に考慮決定するのが妥當であらう

と市長の獨裁主義を難詰、金古氏から保留の動議が出て結局十四日の本會議迄贊否を決定することとなつた尙收入役は西野源次郞、同代理に草野常彌爾氏が推薦されたがこれ亦保留となつた

伊藤氏は本縣安積郡中野村の出身一介の警察官から叩き上げた立志傳中の人で曩に商工水產課長、或は會津支廳長たりし事務家である

地方鑛業開發上 技術者短期養成
成行きを刮目さる

商工省では國家將來の產業開發上之の方面に携はる技術者の短期養成を計劃し工業方面の全國的各專門學校にその施設を併置したが常磐炭界でも此際石炭增產五ケ年計劃に伴ふ技術員補給の爲礦業補習學校設置計劃案を立て目下夫々研究中で近く成案を得るものと觀られてゐるが右實現の際は地方の中等學校に所屬せしむる豫定で土地柄非常な關心を以て一般から迎へられてゐる

小學校の乃木祭
第二では學藝會

市內各小學校では來る十三日の乃木祭當日校長の講話などで將軍のありし日を偲ぶが第二小學校ではこの日小學藝會を催しクラス代表からこれに因んだお話しがある

秋の磐女バザー
十月廿四、五の兩日

秋の櫻ケ丘を飾る磐城高女のバザーは十月二十四、五の兩日に亘つて催されることに決定學校では生徒を動員、出陳品の作製に着手した、當日は例によつて割烹部のお料理サーヴイスもある筈で賑ひを豫想されてゐる

出荷千百俵
あす俵米共販

石城販聯の俵米定期共販は翌十一日行はれるが出荷左の如く合計千百俵、愈よ收穫季を控へて幾分値上りを來すではないかと見られてゐる

平一號一八七　同二號一二四　草野一號一一〇　同二號一〇七　平窪一號一二〇　同二號五六　小川一二四　渡邊七七　勿來一四五　植田五〇

中島十藏氏郡山へ

退職の平區監督判事中島十藏氏は目下欠員中の郡山公證人役場公證人に任命されることに決定、十四日午前八時三十分發の磐越線で家族同伴出發する

秋刀魚漁を控へ 惱みの氷饑饉
漁業家對策に腐心

秋の味覺の王秋刀魚は昨報の如く愈よ來る二十一日から解禁され全國の秋刀魚漁船は農林省令によつて解禁の前日二十日午後から岩手縣の釜石及び宮古の二港より出漁を許可されるので片岡の大型漁船は早くも準備を進めてゐる昨今、沖合漁業の生命ともいふべき氷が不足を來し漁業家の惱みの種となつてゐるやうだ即ち全國的の氷饑饉に見舞はれてゐる處へ春夏漁期の漁業が豐漁だつた關係其他によつて一層の不足を來して居り、若し氷なしで出漁すれば漁があつても魚は腐つてしまふと云ふ悲運を豫期され茨城縣では早くもこれが對策に腐心してゐるなど、いまや待望の出漁日を前にして各縣漁船隊は何れも腕を拱いて一と苦勞の態である尚昨年も同樣氷饑饉に惱されたがどうやらこの難關を

實施してゐる

出漁船三十六隻

さんま漁は別項の如く愈よ二十一日から解禁となるが縣內漁船の豫定船は三十六隻で本年は宮城縣女川港を出漁根據地とする事になつた爲本縣から商工水產課及川技手が十九日同港に出張二十六日迄滯在し各種手續指導等をなし二十日正午を期して前記三十六隻の本縣漁船に對し出漁許可證を與へることとなつてゐる

職工採用試驗

平職業紹介所扱ひ芝浦製作所の職工採用試驗は既報の如く來る十三日午前八時から、日本鋼管は來る二十日何れも平第一小學校講堂で行はれるが、目下の申込みは芝浦八十名、日本鋼管三十名である

二百圓の女給ドロン

市內南町カフエー中央會館こと片寄フク方抱女給長野縣東筑摩郡日向村生れ塚原ツル（一九）は去月二十三日前借二百圓を踏み倒して逃走郷里で理髮業をやつて居る父親方に立寄るではないかと抱主から平署に搜索方を願ひ出た

龍虎相搏の競技に 軍國氣分を强調
十二日郷軍の武術大會

在鄉軍人郡聯合分會では來る十二日の日曜をトし午前八時から東部射擊場（神谷村）改築竣工式を擧行後同九時から晴雨に拘らず左記第十回武術大會を催し大に軍國氣分を强調すると

一、射擊—東部射擊場
一、銃劍術—平商業學校雨天体操場
一、軍刀術—平第一小學校講堂

近視眼が因
湯本のトラック禍

既報、湯本町天王崎地內國道で自轉車に新聞を積んで疾走中同町上川自動車運轉手矢吹三郎（三三）の運轉するトラックに衝突後頭部に全治三週間の傷を負つた同町三函新聞配達佐藤信衛（一四）は引續き最寄病院で手當を受けてゐるが、平署で取調べの結果信衛は近眼の上自轉車前部に積んでゐたのでアッ！と云ふ間にハンドルを誤つたもの、附近民から同情されてゐる

。。。。。平商陸上運動會　平商業學校の陸上運動會は既報の如く十三日催されるが當日學校では兒童の成績品展覽會を併せ催す

。。。。自動車檢査　濱通り各警署管內の自動車々体檢査は來る二十八日から三日間市內八幡小路檢査場で行はれるが受檢車百二十台

映畫常設館 去月中業態

平署管內六映畫常設館に於ける去月中の業態は入場者大人二萬六千百八十五名、小人一萬五百八十七名でその收入五千六百三十七圓大人の最高は世界館の五千九百五十五名、小人は平館の六千七百二十八名である

鎌田町縣道編入 更に縣會へ陳情
運動愈よ積極化す

平市東方部の發展を左右すると迄重視されてゐる鎌田町地內の縣道編入運動はさきに地元代表者から青沼市長宛陳情書を提出し、若島知事の初巡視に同樣陳情をも試みたが、更に地元では來る縣會に際して實現を期することとなり地元選出縣議を通じて陳情すべく目下諸般の準備を進めてゐる

二百二十日も穩かに 豐秋＝銃後の護り固し
皷腹擊壤の季近づく

滅入る樣な虫の哀音にあけた今十日の厄日前日は嵐どころかそよりとの風も無く梅雨型の空模樣は近來尙ほおしめり不足の處へ却つて誂へ向き。朔日の二百十日と云ひあすと云ひ之れで完全に懸念した厄日を經過する地方の農家は愈よ增收確實の見込みが附いて畏きおん歌作ら翁や一人山田守るらん軍國風景も見らるる事であらうが、里は何れも皷腹擊壤稻たはゝなる豐の秋は銃後の護りも一しほ堅實なるものがなくては叶はぬ筈である

補充馬對策 勸業主任會

昨報—九日平第三小學校に開かれた一市三郡の勸業主任會には縣から山川農務課長、河原田種馬所長外四名出席の下に開き、山川課長から今後に於ける補充馬の善後處置を指示、左記事項に亘つて協議した

馬の補充　馬の勞働不足補充　自給肥料補充

投槍
投書歡迎

。。。。。。

獻金箱と獻金鍋

◇暴戾あくなき支那兵と戰つてくれる我等の兵隊さんのために、今や銃後運動は街にも村にも日毎に高まつて行く時、私は『獻金鍋』と『獻金箱』の設置を提唱します

◇獻金鍋は本町の四ツ角或は驛前邊に二、三ケ所設け、丁度救世軍で毎年末に行ふ『慈善鍋』のやうに通り合せの人が誰でも隨意に獻金出來るやうにしてはどうだらう、これは先づ軍事後援會か各種團体の手によつて實現したい

◇それから『獻金箱』は中小學校內に望みます、現に白河の第三小學校ではこの『獻金箱』を作り廊下二ケ所へ設けて、兒童の毎日のお小遣ひからいくらでも獻金させることにしたそうだが至極結構な思ひつきだと私は思つてゐる

◇積極的募集に乘り出すのも此の際必要なことであらうが、かうしてその愛國心に訴へて綴つた赤誠の結晶を兵隊さんに贈るのもまた有意義なことであると信じます、是非關係筋の御一考を望んで已みません（K町赤心生）

勞力奉仕
學業に支障なき限り 兒童、生徒も協力せよ
縣で各學校に通牒

『軍人の家』に對しては既報の如く『勞力奉仕班』を結成する等漸次救護の手がさし延べられてゐるが縣では更に各小學校長其他關係筋に對し學業に支障ない限り兒童、生徒をして適當なる作業に協力せしめ、農林漁業の經營等勞力不足の緩和に寄せられるやう夫々通牒を發した

銃後運動協議
けふ產組打合會

郡下產業組合の打合會は既報の如く農林省の一齊事務管査を前に十日午前十時から縣經濟更生課中西主事を招き平團体事務所に開かれ左記事項に亘つて打合せた

產業組合一齊監査　施行期日　自治監査　審拔樣式　概況調査　特別農村產業組合調査　銃後運動

。。。慰問袋　市內二丁目石川淸子さんは慰問袋一個を市役所へ寄託

十一日（小名濱滿干潮）
滿潮 前八、一〇 後六、五五
干潮 前一、三五 後〇、五〇

新 九月	十一日			
舊 八月	七日			
土曜	辛丑	友引	定	柳宿

東京市本鄉區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館（諸判定應需）

▲一白 誘惑を却けて自己の本分を盡さるゝが勝利▲二黑 才力に順行して物事の進展を見る平安の日▲三碧 敵の伏兵に追擊せらるゝが如し怪我に注意▲四綠 希望計畫徒勞に終る日相談成らず爭論注意▲五黃 平常の小事は差支なきも大事はさせつすべし▲六白 窓の如く希望成れども柴離の夢を結ぶは凶▲七赤 從前の志望を遂せいし得べき幸運日企業亦吉▲八白 深慮事に當れば惡魔うかゞふも身に迫る恐なし▲九紫 元きはつらつたる日奮勵して望なる營造作吉

廣告

初夏の氣分と行屆いたルーム
お出をお待ち致します。
珈琲と御食事
グリル パツカス 電七〇二

女店員募集
全部給料制度 品位良き方を望む 經驗無き方も良し

復寫鮮明 筆觸快適
ゼネラルカーボン紙
魁文堂 電話313番

齒科一般
平市田町（安齋醫院向）
齋藤醫院
東京齒科醫學士 齋藤賢三

精神病科 腦脊髓病科 神經病科
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
郡山市外大槻村 電話九二番
入院隨時 院長 醫學士 金森□郎

新車のお知らせ
斷然!!! 乘心地良い!!!
三七年型フオード
入車いたしました。是非！御試乘の程を！
市內四丁目 スヾキタクシー 電二一七番

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社直油特約店
關彰商店平支店 電話六一番
本店 水戶線下館驛前（電話五五・三三九番）
營業種目 輕油、揮發油、石油、重油、マシン油、モビール油、機械油類、胡麻油、種油、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
支店所在地 茨城縣 土浦町田宿（電話六五三）關本驛前（電話八二四） 常磐線 四倉驛前（電話平潟五四） 常城線 久慈濱支店（電話四八） 小名濱支店（電話一三七番） 海上給油所 大津 平潟 及油槽所 江名濱